

# 営農ファイル

## 農産園芸部門

### 農作業メモ

11月号

#### ハウス胡瓜

灌水は少量ずつ回数で調整してください。発根剤のこまめな使用をお願いします。

果実肥大が始まったら灌水量を徐々に増やしてください。温度管理は、夕方は蒸し込まず夜間は9〜10℃で冷やす管理に努めてください。追肥は果実肥大が開始した頃より実施するようお願いします。

本づるの下位4〜5節（地面から30cm）の脇芽は早めに除去、主枝摘心までには下葉5〜6枚も除去してください。主枝摘心は胸から目の高さの間で行ってください。脇芽除去・摘芯後には防除をお願いします。

11月は寒暖の差が大きく、加温機の稼働が不規則です。そのため夜間のハウス内の温度が高くなり

やすく、べト病や菌核病が発病しやすくなります。予防中心の防除に努めてください。また、ハウスが閉めこまれる前に、ハウス内の害虫も徹底して防除しましょう。黄化えそ病（MYSV）の媒介であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底してください。コナジラミ、ウリノメイガの発生も散見されるため同じく防除の徹底をお願いします。

#### にら

株養成期間も終盤となり切り返し、O番出荷開始時期となりました。さび病の発生もまだ考えられる時期ですので、継続的な防除をよろしくお願いします。

今期は急な気温の変動が懸念されますので、前持った資材等の準備をよろしくお願いします。

ビニール被覆前後には必ずスリップスの薬剤散布を徹底するようによろしくお願いします。（ファインセーブ・グレイシア・ディアナ等）

#### トマト類

低温期に入ります。ハウスを閉め切る時間が多くなり、病気の発生が懸念されます。循環扇、ダクト送風、こまめなハウス開閉等でハウス内の湿度調整に努めてください。同時に、農薬散布による予防も徹底してください。病気発生後では進行が止まりにくくなりますので、予防を基本に考えましょう。

#### きんかん

収穫後の草刈りや礼肥・堆肥の施用などを行ってください。中耕や深耕により土壌の物理性を改善することで、根群の発生と力を維持し、樹の老化防止と収量引き上げ、品質向上等が図れます。※堆肥等の施用（元肥）をする際は、土壌診断を実施し、診断結果を元に施肥を行うようお願いします。

#### イチゴ

コナジラミ・トマトキバガに關しましても、継続した防除をお願いします。

ビニール被覆を行ってください。また、電照の準備を行いましょう。発根剤などを用いて根の活着を促進し、年内の株作りを徹底してください。うどんこ病、コナジラミ、ダニが蔓延しない様に観察を良く行い、早期防除を徹底するようお願いいたします。

#### ぶどう

収穫後の草刈りや礼肥・堆肥の施用などを行ってください。中耕や深耕により土壌の物理性を改善することで、根群の発生と力を維持し、樹の老化防止と収量引き上げ、品質向上等が図れます。※堆肥等の施用（元肥）をする際は、土壌診断を実施し、診断結果を元に施肥を行うようお願いします。

果実肥大も終盤になり果実の肥大による下垂枝については、枝つりを行い、樹勢低下・褐色腐敗病防止に努めてください。